

インフレ時代の 住宅ローンの選び方



住まいのしあわせを、ともにつくる。
住宅金融支援機構

将来、返済で困らなれために、
しっかり検討することが大切です。



物価高という現実



最近、物価が上がってきて困っています。



食料品や日用品などの生活必需品も含めて
モノの値段が上がり、インフレが進んでいます。



インフレによる金利上昇

一般的にインフレが進むと物価の上昇を抑えるため金利は
上昇します。もちろん住宅ローンの金利も例外ではありません。



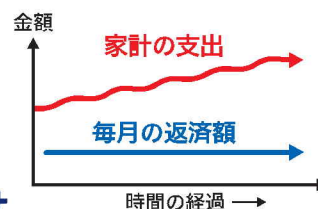
借入後は金利が変わらない全期間固定金利



Q インフレに強い住宅ローンってあるの？



A 全期間固定金利の住宅ローンは、借入後に
インフレで家計の支出が増えても住宅ローンの
支出が増えることはありませんので、安心感があります。



全期間固定金利なら借入後に世の中の金利が上がっても返済額はそのままでの安心して返済を継続できますが、
変動金利の場合は金利上昇(返済額増)への備えが必要になります。

ここで2種類の住宅ローン金利タイプを比べてみましょう

変動金利

- 借りた時の金利は全期間固定金利より低め
- 金利が上がると返済額が増える可能性
- 家計にゆとりがあり、返済額の増額に対応できる人向き

全期間 固定金利

- 借りた時の金利は変動金利より高め
- 毎月の返済額が変わらないので将来設計が立てやすい
- 物価が上昇しても家計を管理しやすい

(注) 上記については、住宅金融支援機構が将来にわたってインフレが続くことを予測するものではありません。

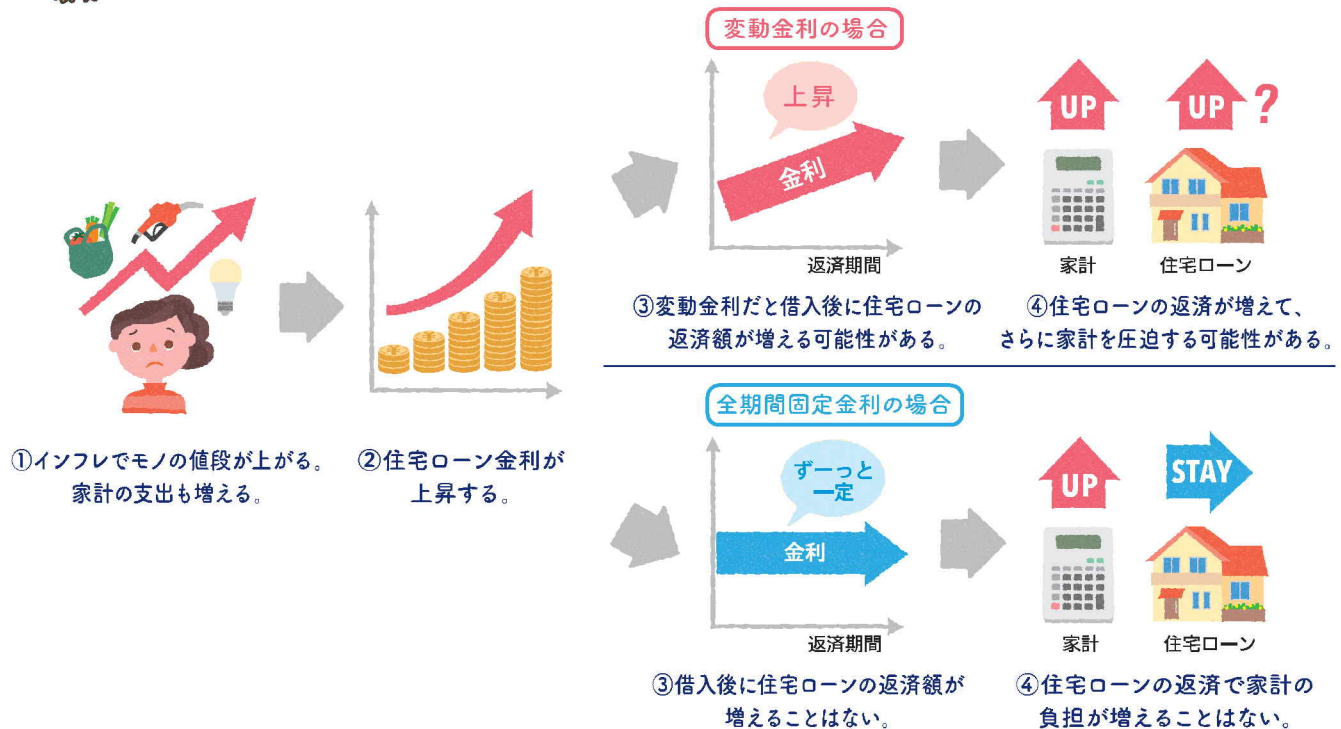


全期間固定金利の住宅ローンは
インフレ時代の味方です！

詳しい解説は裏面をご覧ください。

全期間固定金利はインフレ時に安心

Q インフレ時の変動金利と全期間固定金利を詳しく説明して
A それぞれの金利の仕組みを確認してみましょう。



(注) 上記については、将来にわたってインフレが続いた場合のイメージです。デフレ（物価下降局面）では変動金利を選択した方が良い場合もあります。

インフレ時のマイホーム取得

Q インフレ時にマイホームを取得しても大丈夫なのかな？
A 一般的にインフレ時には不動産の価格上昇が見込まれるので、現在、結婚やこどもの進学など、ライフイベントに合わせてマイホームの取得を考えている方にとっては、良いタイミングとも言えます。また、省エネ性能に優れた住宅を取得すれば月々の光熱費を安く抑えて家計の負担を軽減できます。



(注) 上記については、住宅金融支援機構が将来にわたってインフレが続くことを予測するものではありません。

【フラット35】

お電話でのお問合せ **0120-0860-35**

(住宅金融支援機構カスタマーセンター)

お気軽にお電話ください。営業時間9:00~17:00(祝日、年末年始を除き、土日営業しています。ご利用いただけない場合は、Tel 048-615-0420へ(有料))

通話無料

2026年10月スタート!

【フラット35】のお借入れで
 楽天ポイントがもらえる!
 フラット35まい・るポイントはこちら

